

## 南 の 島 で



加 藤 智

(高校35回) 沖縄県 石垣島在住

弥生ヶ丘高校 創立70周年のちょうどその時、私は70周年記念式典で 生徒代表として祝辞をのべました。

そして百周年の今回 このようなかたちで、原稿が書けることを感謝します。

70周年のその時、三年生であった私には想像もつかなかったろう。

青い海への憧れだけを理由に石垣島に移住して10年以上たつ。

仕事は、車エビの養殖に携わっている。

石垣島の暮らしには多くの感動がある。

浜辺から海に入り、そのままちょっと潜れば 珊瑚礁や魚たちの美しさに目を奪われ、サザエがあれば取って食べる。

水面を滑るように走るヨットで爽快に風と遊ぶ。

潜らなくても、走らなくても、ベランダに出て外を眺める。

紺碧と紺青と澄み切る青の海。

水平線で分かれる蒼海と蒼空。

そして流れる雲。

夏の夕暮れ、雲が邪魔をしなければ、夕日はそのままジュワーと海に溶けていく。

空は赤から赤紫、紫から青紫、紫紺、濃紺へとゆっくり変わる。

西に金星を見つけると、ポツリ ポツリと星が生まれ出し、やがて満天を埋め尽くす。

自然の美と壮大さに魅了される。

年に一度帰省する。

帰ると 雄大に聳え 連なる山々や、清爽な空気、鮮麗な紅葉などに 強く心を揺すられる。

在郷の頃はそうでもなかったのに。

生まれ育った日常的な風景に鈍る心が、遠く故郷を離れるうちに、やっと感じた高揚。

もっと、ずっと ずっと感動できたはずだろう。

高校がいろんな事に興味を持って、感動できる環境であれば面白いと思う。  
多感な頃に五感を磨ける。

さて、高校生の頃の私が、南の島に興味を抱いていたら、今頃は、もっと南 赤道あたりの空を見上げていたかも、なんて考えつつ 百年に思いを巡らす。

時が流れ、世代も変わり、胸がいっぱいになる思いが百年分。  
偉大な歴史。  
そして、これからもずっと、人々の心を揺すり続ける。  
自然の美しさのように。

わが母校の次の百年も すばらしき百年であることを願い、大きな期待を胸にする。  
はるか南の島で、海と空と夕日をながめながら。